

株主メモ

決算期	毎年8月31日
定時株主総会	毎営業年度終了後3ヶ月以内
利益配当金受領株主確定日	毎年8月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年2月末日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	
同 連 絡 先	
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 (決算公告…電子開示といたしました。 http://www.tetsujin.ne.jp/iframe.htm)

IR情報につきましては、当社のホームページにも掲載されておりますので、ご覧ください。

ホームページアドレス
<http://www.tetsujin.ne.jp>



株主優待のお知らせ



株主様ご優待カードを贈呈いたします。

毎年8月31日現在の株主及び実質株主の皆様に対し、下記店舗にてお使いいただける、「株主様ご優待カード」を贈呈いたします。

このカードは下記店舗にてお使いいただけるご優待カードです。受付時のカードご提示で下記「株主様コース」がご利用になります。他のサービス券とは併用できません。また、紛失された場合の再発行はいたしませんのでご了承ください。

<株主様コースについて>

カラオケルーム 17時から20時までのご利用分に限り、基本室料無料(5名様まで)
※フリータイム料金、その他一部のパック料金には適用されません。

ビリヤード/まんが(複合カフェ) 全時間帯、ご利用料金の総額から30%を割引(5名様まで)
※ダーツのプレイ料金、ネイル料金は対象から除外させていただきます。

<ご利用店舗>



カラオケの鉄人
カラオケ屋
カラオケY'a



サンビリ



まんが帝国
アジールエッセ
ブックカフェ

コミックライブカフェ
カフェヌーベル

からふね屋珈琲、カフェアジールではご利用になれません。

東京都目黒区中目黒2-6-20京急建設イマビル(お問合せ先)管理本部 TEL.03-5773-9184

TETSUJIN
株式会社 鉄人化計画®



株式会社 鉄人化計画®

Copyright©2006 株式会社鉄人化計画



PRINTED WITH
SOY INK
この事業報告書は環境に優しい
大豆インキを使用して
印刷しています。



古紙配合率100%
再生紙を使用しています。



株式会社 鉄人化計画®

第8期 中間事業報告書

平成17年9月1日 ▶ 平成18年2月28日



証券コード：2404



TETSUJIN INDEX

「遊びを解放し、余暇文化を再生すること」
これは私たち鉄人化計画のモットーであり事業の根幹です。
第8期(中間期)における私たちの主な成果をご紹介します。



登戸店オープン

神奈川県川崎市多摩区登戸3465 いろはビル4~6F

2005
9月



利便性の良さから、首都圏のベットタウンとして発展していく「登戸」。平成17年9月5日にオープンした登戸店は、ターゲットが多岐に渡る地域の特性を活かし、オールラウンドな「CASUAL ON CHIC」、男性的な「COOL & BLUE」、女性的な「POP & RED・WHITE」といった、3階層それぞれ異なるテーマで店内を演出しています。



2005

9

September

(株)システムプラン・ベネックス子会社化
・音響設備ソフトウェア・ハード開発

10

October

11

November

(株)エクセルシア子会社化
・音源開発、音響コンテンツ配信



飯田橋神楽坂店オープン

東京都新宿区神楽坂2-10 神楽ヒルズ3F

2005
11月

神楽坂は都心にありながら江戸情緒を色濃く残す街、そしてまた海外の方も多く国際的な街。平成17年11月21日にオープンした飯田橋神楽坂店のコンセプトは「EAST MODERN」。店内は光や質感、植栽により、「街」が持つイメージを演出しています。



新宿コマ劇場前店オープン

東京都新宿区歌舞伎町1-21-2 第2東亜会館3F

2005
11月



超高層ビル群・大ショッピングゾーン・歓楽街と、まさに日本の文化・情報の発信基地である新宿。様々な表情を持つこの地に平成17年11月1日にオープンした新宿コマ劇場前店のコンセプトは「SURPRISE!」。ご来店いただいたお客様に、「忘れられない店」としての強烈なイメージをインプットしていただくために、「驚きを与える演出」を施しています。



12

December

2006

1

January

2

February

2005
11月

からふね屋珈琲(株)
・株式譲渡契約書締結



「カラ鉄ナビ」導入

操作性と音楽情報を重要視し、演奏リクエストと飲食オーダーシステムを統合した「カラ鉄ナビ」の開発・導入を、平成17年11月上旬より開始しました。

「カラ鉄ナビ」には、「ランキング」や「カラ鉄おすすめ!」といった、カラオケをよりお楽しみいただける当社オリジナルコンテンツを導入。その他、音量調節やキーコントロール、ドリンク・フード等のオーダーも行うことができます。



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
 平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 ここに第8期(平成18年8月期)の中間事業報告書をお届けいたします。
 当中間期におけるわが国経済は原油価額の高騰による経済への悪影響が懸念されたものの、企業業績の順調な回復を受け、民間設備投資の拡大、雇用情勢の改善と個人消費の持ち直しなどを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。
 当社グループの主力事業であるカラオケルーム業界におきましては、カラオケ参加人口がここ数年4,800万人程度と安定しているものの、業界再編の加速と大手チェーン店同士の競争激化に加え、消費の二極化、嗜好の多様化などがますます顕著となり、平均的な利用料金は減少傾向にあるため、お客様に望まれる商品・サービスをいかに的確に捉え、提供するかといった、企業の総合力が試される状況となっております。



このような経済情勢及び業界動向にあって、当社グループは、首都圏でのシェア拡大を図るため、「カラオケの鉄人」店舗3店の新規出店を積極的に実施いたしました。また、カラオケルームでの新たなコンテンツとして「カラ鉄ナビ」を開発し導入いたしました。さらに、カラオケルーム業界における競争力の一層の強化と優位性を図るため、音響設備のシステム開発会社と携帯電話コンテンツ並びにカラオケ用MIDI音源の制作会社の2社を買収により100%子会社といたしました。それにより当中間期より連結決算を行っております。

営業面と開発面での積極的な取組みと共に、当社グループ全体での管理コストの効率化に取組み、大幅な経費削減を実現いたしました。

なお、当中間期におきましては、第三者割当増資(発行株式数2,800株)を実施し、株式会社横浜銀行と2個人へ割当てましたことをご報告いたします。

下期に向けての取組みといたしましては、カラオケルームを中心に既存店の業績向上に注力し、「感動」をテーマにした接客レベルの向上を図ってまいります。また、カラオケルームの新たな運営形態として居酒屋等の飲食店とジョイントしたサービスを展開してまいります。出店計画においても「小規模店舗対応の鉄人システム」が開発されたことにより、インシヤルコスト負担が比較的小さい中小規模のカラオケルームを積極的に出店してまいります。その他の事業展開といたしましては、複合カフェ運営事業におけるM&Aによる店舗出店、新たな事業形態としてフルサービス型珈琲ショップの運営など営業面での積極的な取組みを行うと共に、引き続き「楽しく歌を歌ってもらう」ためのコンテンツの開発や次期デジタル鉄人システムの開発を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2006年5月

代表取締役社長 日野 洋一

カラオケルーム運営事業

当事業におきましては、カラオケ店舗3店の新規出店を実施し、当中間期末の直営店は26店舗となりました。
 営業面におきましては、業界再編の加速と大手チェーン同士の競争激化により、比較可能な既存店の売上高は、前年同期比4.2%減となりました。
 新規店舗におきましては、3店舗の新店を計画通りに出店いたしました。インシヤルコストの負担並びに開業初期段階での十分稼働しない営業により、当中間期の業績に大きく影響いたしました。
 設備投資面におきましては、演奏リクエストと飲料オーダーシステムを統合した「カラ液晶タッチパネル式リモコン(カラ鉄ナビ)」を開発し「カラオケの鉄人」店舗に導入いたしました。
 また、新たな鉄人システムの開発の過程において、従来型のものと比較して導入コストの負担が大きく改善される「中小規模店舗対応の鉄人システム」を開発し、「カラオケの鉄人飯田橋神楽坂店」より導入を開始いたしました。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、2,282百万円となりました。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業

当事業におきましては、デジタルダーツ遊技機が高い人気を博しており、同遊技機が主力商品となっております。またダーツ機以外には、対戦型アミューズメント通信遊技機を新たに導入し、更なるお客様の集客増を実現いたしました。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、208百万円となりました。

まんが喫茶(複合カフェ)運営事業

当事業におきましては、前期末までの出店により直営店が7店舗となりました。
 今後の市場拡大を見据えた新たなブランド「アジュールエッセ」の事業展開は、前期末現在4店舗となり、ビジネスコンテンツとコミックやインターネットを融合した店舗コンセプトとして、他社との差別化の優位性を検証しつつ、今後も積極的に出店してまいります。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、162百万円となりました。

音響設備販売事業

当事業におきましては、カラオケメーカー向け周辺機器の受注が堅調に伸びており、加えて照明システム設備の販売及びメンテナンス業務も順調に推移いたしました。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、169百万円となりました。

音源販売事業

当事業におきましては、携帯電話用コンテンツプロバイダ向けの着信メロディ音源の制作及び販売を行いました。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、85百万円となりました。

その他

その他の事業におきましては、「鉄人システム」のレンタル及びカラオケ機器並びに同周辺機器の販売を行いました。
 これらの結果、当中間連結会計期間における売上高は、10百万円となりました。

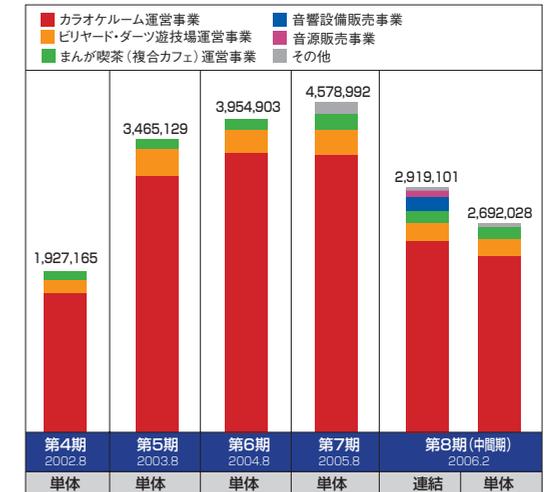
なお、当社グループは、平成18年8月期から「固定資産の減損に係る会計基準」が適用されることから、当社グループが所有する固定資産及びリース資産について減損損失70百万円を計上いたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高2,919百万円、経常損失61百万円、中間純損失89百万円となりました。

事業別売上高構成比

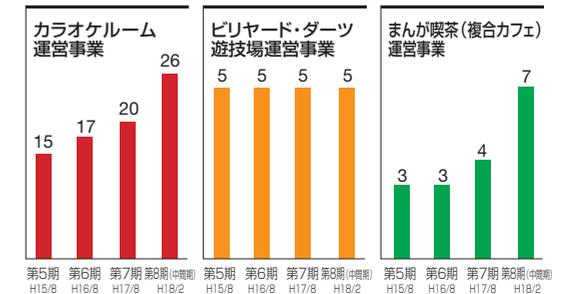


事業別売上高の推移 (単位:千円)



※注 当社は、当中間期(第8期)より中間連結財務諸表を作成しております。

店舗数の推移



中長期的な経営戦略 事業拡大に向けた2-way戦略!

Organic Growth (既存事業の拡大) + M&A

- 既存事業の拡大 ➤ 出店展開、システム開発による拡大
- リアル+バーチャル融合による拡大 ➤ 店舗集客・会員数の増加
- M&Aによる出店展開 ➤ 初期コストの低減・新業態展開・スピード



出店展開・システム開発

店舗展開の基本コンセプト

当社グループの店舗を訪れたお客様が、事業固有の本質的サービスの提供を楽しんでいただくためのコンテンツやシステムの開発を積極的に取り組むと共に、独自の店舗(店舗コンセプト)作りを行うことで差別化を図ってまいります。

新たな店舗業態であるフルサービス珈琲ショップの展開

これまでの店舗運営ノウハウを活用して、新たな店舗業態であるフルサービス型珈琲ショップの展開を図ってまいります。

カラオケルームの出店について

カラオケルーム運営事業におきましては、首都圏を中心に都市型駅前店舗の出店を加速させ、大手チェーン店並みの認知度向上を図ってまいります。

ビリヤード・ダーツ遊技場及びまんが喫茶(複合カフェ)運営事業について

新規事業であるビリヤード・ダーツ遊技場運営事業とまんが喫茶(複合カフェ)運営事業におきましては、特に複合カフェ業態での差別化を確立させ、独自の店舗コンセプトに基づいた店舗展開を図ってまいります。

販売・レンタルについて

店舗運営事業以外の戦略といたしましては、前期より開始いたしました当社オリジナルのカラオケシステムである「鉄人システム」のレンタル事業及び当期に開発いたしました「カラ鉄ナビ」と当社オリジナルのPOSシステムの販売に取り組んでまいります。

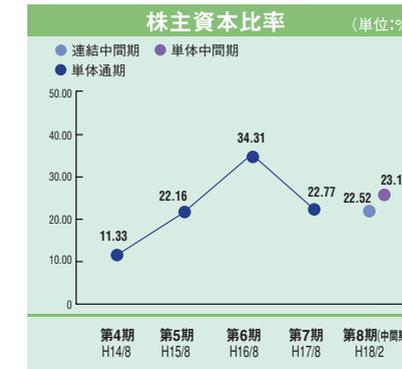
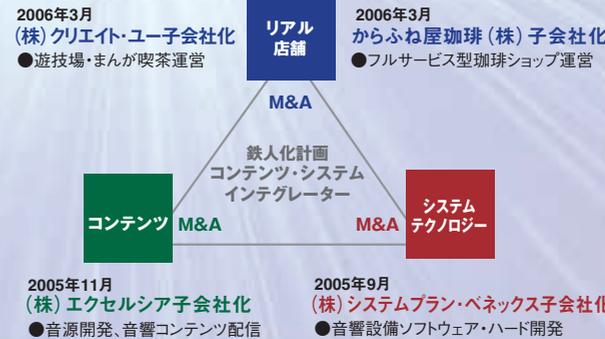
リアル+バーチャル

新たなビジネスモデルの取組みといたしまして、当社グループは、昨今のインターネットやモバイルツールを介したデジタルコンテンツビジネスが旺盛となっていることに着目し、現在、モバイルツールを活用した電子商材の販売及び営業店舗を活用したリアル商材の販売システムを研究しております。今後は、当社グループの営業店舗をリアルショップとして位置付け、ブランド化を図り、当社グループの営む事業関連商材の販売チャンネルをウェブ・モバイル上で展開してまいります。

M&A

当社は既存事業の強化、新規事業・関連事業への進出を目的として、平成17年9月に音響設備ソフトウェア・ハード開発会社「株式会社システムプラン・ベネックス」、平成17年11月に音源開発、音響コンテンツ配信会社「株式会社エクセルシア」、平成18年3月にフルサービス型珈琲ショップ運営会社「からふね屋珈琲株式会社」、平成18年3月に遊技場・まんが喫茶運営会社「株式会社クリエイト・ユー」の以上4社のM&Aを行い、当社グループが形成されました。

M&Aによる出店展開により初期出店コストの低減や新業態展開のスピードアップを図るだけでなく、「リアル店舗」+「コンテンツ」+「システムテクノロジー」=「システムインテグレーター」として既存事業との同時進行で事業拡大を実現させていきます。



※注 当社は、当中間期(第8期)より中間連結財務諸表を作成しております。

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成18年2月28日現在)
資産の部	
流動資産	2,393,223
固定資産	4,254,131
有形固定資産	2,587,433
無形固定資産	406,166
投資その他の資産	1,260,532
資産合計	6,647,354
負債の部	
流動負債	2,408,402
固定負債	2,741,742
負債合計	5,150,144
資本の部	
資本金	731,700
資本剰余金	724,755
利益剰余金	40,754
資本合計	1,497,210
負債及び資本合計	6,647,354

中間連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成17年9月1日～ 平成18年2月28日)
売上高	2,919,101
売上原価	2,564,413
売上総利益	354,687
販売費及び一般管理費	393,614
営業利益または損失(△)	△38,926
営業外収益	25,091
営業外費用	48,023
経常利益または損失(△)	△61,859
特別利益	5,293
特別損失	75,722
税金等調整前中間純利益または損失(△)	△132,288
法人税、住民税及び事業税	38,585
法人税等調整額	△80,981
中間純利益または損失(△)	△89,892

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成17年9月1日～ 平成18年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	101,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△788,576
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,383,168
現金及び現金同等物の増加額	695,860
現金及び現金同等物の期首残高	1,117,639
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,813,500

中間貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	前中間期 (平成17年2月28日現在)	当中間期 (平成18年2月28日現在)	前期 (平成17年8月31日現在)
資産の部			
流動資産	937,220	2,099,519	1,504,930
固定資産	2,755,475	4,319,507	3,416,670
有形固定資産	1,921,038	2,501,784	2,364,940
無形固定資産	46,980	58,349	39,872
投資その他の資産	787,456	1,759,372	1,011,858
資産合計	3,692,695	6,419,026	4,921,601
負債の部			
流動負債	1,190,393	2,223,424	1,683,333
固定負債	1,387,651	2,706,409	2,117,622
負債合計	2,578,044	4,929,834	3,800,956
資本の部			
資本金	488,500	731,700	491,400
資本剰余金	480,850	724,050	483,750
利益剰余金	145,301	33,442	145,495
資本合計	1,114,651	1,489,192	1,120,645
負債及び資本合計	3,692,695	6,419,026	4,921,601

中間損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	前中間期 (平成16年9月1日～ 平成17年2月28日)	当中間期 (平成17年9月1日～ 平成18年2月28日)	前期 (平成16年9月1日～ 平成17年8月31日)
売上高	2,119,991	2,692,028	4,578,992
売上原価	1,809,172	2,424,821	3,981,940
売上総利益	310,818	267,206	597,052
販売費及び一般管理費	271,461	331,553	572,582
営業利益または損失(△)	39,356	△64,347	24,469
営業外収益	23,045	26,884	57,349
営業外費用	34,611	46,655	71,054
経常利益	27,790	△84,117	10,765
特別利益	6,995	5,293	36,718
特別損失	18,439	71,551	26,339
税引前中間(当期)純利益または損失(△)	16,346	△150,375	21,144
法人税、住民税及び事業税	4,414	7,797	9,327
法人税等調整額	4,351	△60,997	4,041
中間(当期)純利益または損失(△)	7,581	△97,175	7,775
前期繰越利益	137,720	130,617	137,720
中間(当期)未処分利益	145,301	33,442	145,495

※注1 本中間事業報告書の記載金額は原則として、表示未満の端数を切り捨てて表示しております。
 ※注2 当社は、当中間期(第8期)より中間連結財務諸表を作成しております。

(平成18年3月31日現在)

店舗情報



カラオケの鉄人 25店舗



カラオケ屋 1店舗



カラオケY'a 1店舗



サンビリ 5店舗



まんが帝国 1店舗



アジュールエッセ 7店舗



ブックカフェ 2店舗



コミックライブカフェ 1店舗



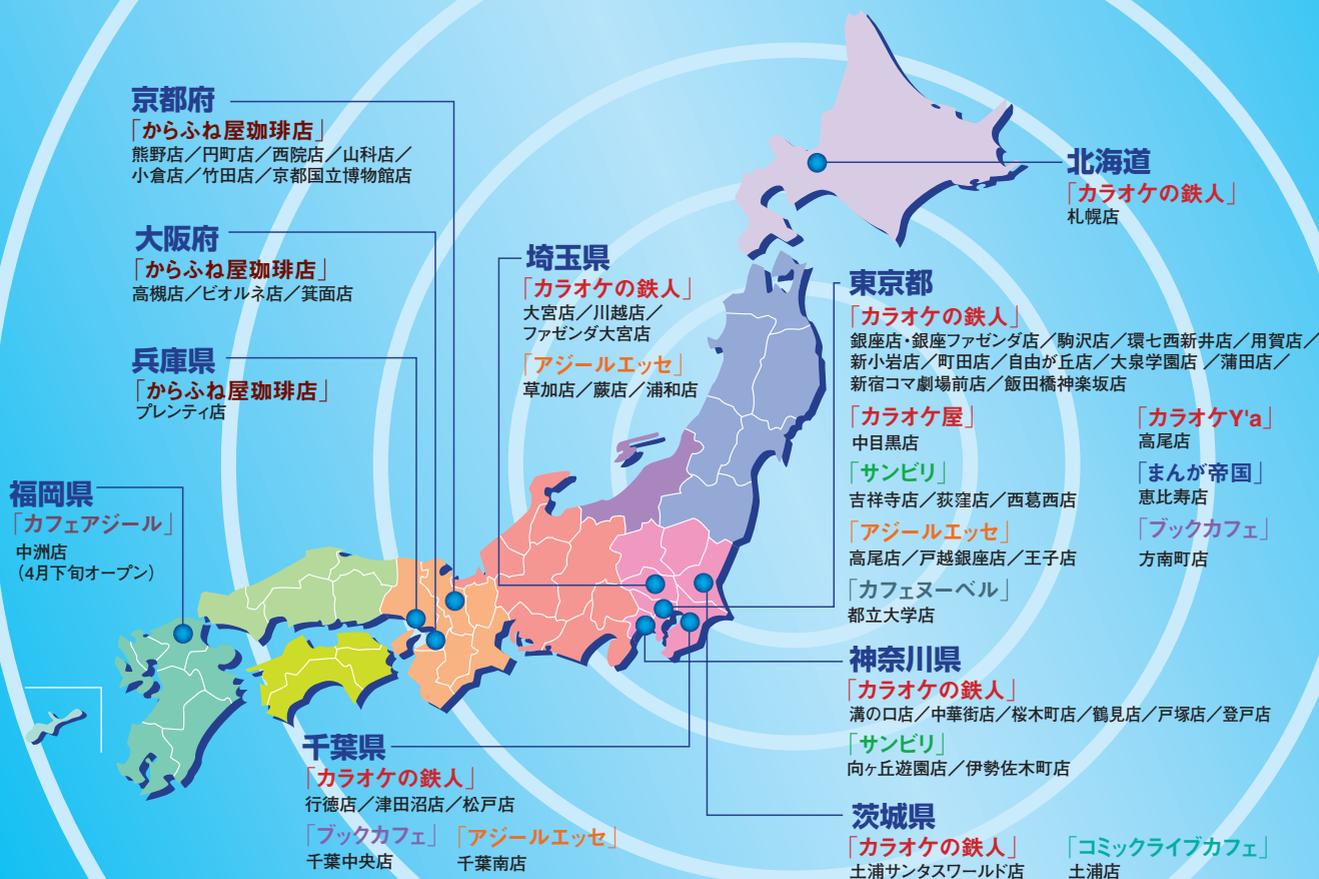
カフェヌーベル 1店舗



からふね屋珈琲店 11店舗



カフェアジュール 1店舗



(平成18年2月28日現在)

会社概要

社名 株式会社鉄人化計画 (TETSUJIN Inc.)
設立 1999年12月14日
本社所在地 〒153-0061 東京都目黒区中目黒2-6-20
資本金 731,700千円
事業概要 カラオケルーム「カラオケの鉄人」をはじめとした空間提供型アミューズメント施設の運営
従業員数 社員 108名
事業所 カラオケ店舗 26店舗:
 カラオケの鉄人(24店舗)／カラオケ屋(1店舗)／カラオケY'a(1店舗)
 ビリヤード店舗 5店舗:
 サンビリ(5店舗)
 まんが喫茶(複合カフェ)店舗 7店舗:
 まんが帝国(1店舗)／アジュールエッセ(2店舗)／ブックカフェ(2店舗)／コミックライブカフェ(1店舗)／カフェヌーベル(1店舗)
 カフェ店舗 11店舗:
 からふね屋珈琲店(11店舗)

役員構成

代表取締役社長 日野 洋一
取締役副社長 荒武 弘美
常務取締役 浦野 敏男
取締役 高橋 等
取締役 星川 正和
常勤監査役 緑河 久彰
監査役 近藤 英世
監査役 宮田 修

株式等の状況

発行する株式の総数 118,560株
発行済株式総数 33,040株
株主数 2,348名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日野 洋一	12,240	37.05
(株)横浜銀行	1,200	3.63
日本証券金融(株)	1,002	3.03
野田 亨一	1,000	3.03
佐藤 幹雄	700	2.12
(株)アトラス	516	1.56
松井証券(株)(業務口)	490	1.48
(株)BMB	400	1.21
(株)タイトー	400	1.21
日野 元太	360	1.09

株式の所有者別分布状況

